

眼科 研修で経験が望ましい項目 (minimum requirement)

	診察・病歴作成	日付	回数
A	診察に際し、患者を安全に誘導、介助することができる。		
A	眼科カルテの略語を説明できる。		
A	細隙灯顕微鏡検査を行い、所見をカルテに記載することができる。		
A	眼底検査を行い、所見をカルテに記載することができる。		
A	チェック項目 ・患者を診察室に案内した。		
A	・細隙灯顕微鏡検査を行い、所見をカルテに記載した。		
A	・眼底検査を行い、所見をカルテに記載した。		
A			
	検査		
A	屈折検査・視力検査の方法、検査結果の見方を説明できる。		
A	チェック項目 ・視力検査を見学した。		
A	・屈折、視力検査結果を指導医に説明した。		
A	非接触式眼圧検査と、接触式眼圧検査の方法と違いについて説明できる。		
A	チェック項目 ・眼圧測定を患者に行った。		
A	視野検査の種類と違いについて説明できる。		
A	チェック項目 ・ハンフリー視野もしくはゴールドマン視野検査の結果を指導医に説明した。		
B	OCT 検査の所見について説明できる		
B	チェック項目 ・OCT の異常所見（緑内障および網膜疾患）について、指導医に説明した。		
	点眼治療		
A	以下の主要な疾患の代表的な点眼治療薬を挙げ、作用機序について説明することができる。		
A	緑内障、白内障、白内障術後点眼薬、ぶどう膜炎		
A	チェック項目 ・上記疾患の治療薬を挙げ、指導医に説明した、あるいは紙にまとめた。		
	手術治療		
A	緑内障手術、白内障手術、網膜硝子体手術、斜視手術、腫瘍手術を見学し、どのような手術か説明できる。		

A	チェック項目		
A	・眼科手術の術前説明に立ち会った。		
A	・緑内障手術、白内障手術、網膜硝子体手術、斜視手術、腫瘍手術を見学した。		
A	・眼科手術の助手についた。		
B	・白内障手術（超音波乳化吸引術、眼内レンズ挿入）の手順について説明できる。		
C	・網膜剥離手術の種類とその治療原理について説明できる。		
	検討会		
A	・眼科検討会で症例発表を行った。		

- A 4週間で経験することが望ましい
- B 8週間で経験することが望ましい
- C 12週間で経験することが望ましい